



## 会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

## 「東京の産業界にとって魅力的な 専門高校の創出 ～新たな都立高校改革推進計画～」

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長

伊藤 彰彦



近年、IT関連技術やバイオテクノロジー・ナノテクノロジー等の発展により、急速に科学技術が高度化しています。また、安価で技術もある労働力を求める企業の国外への工場移転等による国内産業の空洞化、雇用の流動化による求人状況の変化、高まる若年層の離職率など、産業構造、就業構造は大きく変化しています。それに伴い、職業人に求められる専門知識や技術も高度化、多様化し、その知識に裏打ちされた専門性や創造力も求められています。

戦後、職業人を目指す生徒を教育するという大きな意義を持ちつつ、勤労観・職業観を培い、職業生活に必要な専門的知識や技術の基礎・基本を身に付け、実習等を通じて社会的責任を果たしうる人間を育成するという役割を担ってきた専門高校ですが、現在の工業科や商業科等の専門高校の教育内容や体制は、必ずしも産業構造にマッチしておらず、新たなニーズに十分対応できていません。また、十分な専門教育を実施できていない面があり、生徒に専門的な技術・技能を確実に身に付けさせる必要があります。

これまで、学科の改編や科学技術高校、進学型商業高校、産業高校等の新しいタイプの専門高校の設置など、専門高校の特色化を図ってきましたが、工業科や商業科等の専門高校の志望状況は低迷しています。また、生徒が専門高校の教育内容等を十分に理解しないまま専門高校への進学を選択している実態もあり、中途退学者は減少しているものの依然として多い状況にあります。

一方、近年、専門高校から就職する者は、学科によって差異があるものの卒業生の約4割にとどまり、進学者が増加する傾向にあります。目的意識が希薄なまま進学を選択している生徒も見受けられます。

また、専門高校の教員が企業現場の実態を十分に把握していないなど、実践的な指導力の不足も課題となっています。

東京都教育委員会では、これらの課題を踏まえ、産業界が必要としている人材を育成する魅力ある高校づくりを一層進め、社会の要請に応える専門高校として、その役割を果たしていくため、平成24年2月に策定した「都立高校改革推進計画第一次実施計画」において、専門高校の改善を行うこととしました。

改善の方向性として、第一に「生徒の技術・技能の修得」、第二に「専門高校教員の指導力の向上」、第三に「専門教育の見直し・充実」を掲げ、社会で役立つ資格の取得や各種大会への参加等の促進による生徒の学習意欲と能力の向上や、企業等の実態に応じた教育の展開など専門教育の質を高めるため、教員の専門的指導力・技術力や、就職指導に必要な能力の向上、また、産業の動向など社会の変化に対応した専門教育を展開するため、既存の専門高校の学科や規模の在り方等について検討していきます。

これらの取り組みによって、専門高校を魅力あるものとし、産業界の求める人材を輩出することで、東京の産業の発展に専門高校が寄与していけるよう、取り組みを進めていきます。

## 商業教育の充実に向けて

京華商業高等学校

校長 太田 祐司



本校は「国富を増進させるためには、人を作らなければならぬ。人を作るためには実際に役に立つ教育を施す学校を作らなければならぬ。」という創立者の信念のもと、明治34年に京華商業学校として創立されました。以来110年を越える今日に至るまで、学問の実地応用を目指す実業教育の実現を目標にしてまいりました。この永きにわたる伝統は、建学の精神と目的である「人材の育成」と「確かな実績」により築き上げられてきたものです。

本校の特徴として先ず挙げられるのがオンリーワン教育です。生徒一人ひとりの個性を尊重し、「生活力」「体感力」「実学力」を育てることで、その特性を引き出すことをスローガンとして多彩な教育内容の整備に取り組んでいます。

- 「生活力」 社会に出てから人間として必要なルールやマナーを、学校と保護者の連携によって、身につけていく。
- 「体感力」 校外授業、修学旅行、芸術鑑賞、クラブ活動、海外研修などの学校行事に参加し、実際に体験することで感性を磨く。
- 「実学力」 社会に出て役に立つ実務能力を養う。

将来社会に出て役に立つ実務的な資格取得を強く奨励しており、コンピュータリテラシー教育（情報活用能力）の推進、各検定に向けて事前補習や講習にも多くの時間を割くなど、きめ細やかな指導体制を取っています。

そして、より早い段階から社会を意識し、商業教育についての理解を深め、今後の学習活動に一層の教育効果を期待して、生徒・保護者に向けての進路講演会を、それぞれの学年の立場を踏まえた内容で専門講師を招いて実施しています。一年次は全員が普通科目と商業の基礎技能を身につける商業科目を

並行して履修し、二年次から大学進学・情報処理・ビジネスの各コースに分かれて履修し、自己実現の達成を重要視しています。将来の夢や目標をイメージし、具体化することで、学習意欲とその方向性が向上していくことを期待して、海外研修、修学旅行などの体験型プログラムの充実を図り、教育効果を高めてきました。また、実社会の構造に視野を向けさせることを目的とするインターンシップ（就業体験）は、キャリア教育の一環として、今年度で10年目を迎えます。実務的な知識と技能の習得を促進させることにより、企業が求める人材育成、仕事に対する意欲と意識の向上に努めた結果、就職率100%の好成績を達成しております。

本来、商業高校は社会人の多くに必要な実務的なスキル（技術・技能）を学びます。実際、商業科目の資格を活かして、社会科学系統の学部、或いは情報系の学部に進学するものが多いのが実状です。本校においては専門学校、就職はもちろんのこと、大学進学にも対応し、そのための三者三様のカリキュラムと指導体制に力を入れております。更に、教育の質的向上は、教員の指導力に大きく関わるものであり、その育成も重要な課題と考えております。学内外研修の積極的な参加、活発な研究授業の実施など、各々の自己研鑽に努めています。何より就職・進学指導の強化については、ここ数年の実績に甘んずることなく、喫緊の対策、具体案を検討しています。また、防災教育の重要性は、昨年震災より学校全体で高い意識をもって取り組んでいます。

かつての日本社会は、人を企業の財産として人材を育てる、という気風がありました。しかし、厳しい実社会においては、即戦力となる人材を企業は求めています。この世情に学生を送り出すにあたって、自立できる人間の基盤を育成することを、教育の最終目標としています。

## 「総合的な学力」を育む特色ある教育活動 －キャリアコアと地域一体の教育活動を通して－

東京都立葛飾総合高等学校

副校長 倉本武雄



### 1. はじめに

本校は平成19年度に開校した東京都6番目の総合学科高等学校である。生徒一人一人の希望進路を実現する「進路名門校」を目指している。キャリア教育の充実を通して、基礎的学力と総合的な学力（人づき合いの力、努力する力、考える力）を向上させ、専門性を伸ばし希望進路を実現する学校である。

### 2. キャリアコアの時間を生かしたキャリア教育

本校ではキャリア教育の中心として「キャリアコア（以下CC）の時間」を設置し、次のように実施している。CC1（「産業社会と人間」、1年次2単位）では、自己理解を深め、夢を創り、2年次での科目登録を行う。CC2（「総合的な学習の時間」、2年次1単位）では、専門性ある選択科目等を通して夢を育てることを目標に学習し、進路希望を明確にしつつ、3年次の科目登録を行う。CC3（「課題研究」、3年次2単位）では、2万字の課題研究を制作・発表することで、夢をつなぐための進路決定に結びつける。

以下が本校キャリア教育の代表的な取組である。

- ① 葛飾アントレ（1年次4月2泊3日で実施）では、夢の実現に向けて高校三年間ですべきことについてグループ討議し仮説を立てる。事業所訪問でインタビューし仮説を検証する。プレゼンテーション大会では、グループの主張を発表しプレゼンテーション能力を育成する。
- ② 職業人インタビュー（1年次夏季休業中実施）では、仕事の楽しさややりがい、苦勞などについて取材しまとめ発表をする。発表会を行なうことで多くの職業を知る機会となっている。
- ③ 修学旅行での調査研究（2年次2月実施）では、興味・関心や進路希望にあわせた各自のテーマに沿って調査研究を行ない、課題研究へ活かす。
- ④ 課題研究発表会（12月実施）では、3年次が各自の課題研究成果を10分間でプレゼンテーションする。保護者や地域の方も含め発表会に参加する。
- ⑤ 学習成果発表会（3月実施）では、1・2年次が1

年間の学習成果を展示、実技発表、舞台発表、イベント形式等の方法により発表する。

### 3. 地域と一体となった特色ある授業での取組

地域と連携した様々な活動では、ともに発展し続けるよう以下の取組を実践している。

- ① <スポーツ福祉系列>「コーチング」「スポーツB」の授業では、地域の小学生サッカー大会を企画・運営しサッカー祭を開催した。「福祉総合基礎」「福祉総合演習」の授業では、地域の高齢者を招いた地域サロンの企画・運営を行った。
- ② <メカトロニクス系列>近隣工務店の指導のもと、文化祭で特設ステージを製作し、近隣町会から多数のサークルに来校願い、パフォーマンスをステージで披露した。
- ③ <国際コミュニケーション系列>「まちづくり」の授業では、地元商店会と連携して「商店街マップ」を作成し、文化祭では商店街のポイントカードとの連携も実施した。
- ④ <情報メディア系列>「情報リテラシー」の授業では、地域のIT関係企業社長の指導のもと、文化祭の公式サイトを立ち上げ公開した。修学旅行の調査研究では、宮崎県庁で宮崎県に修学旅行生を誘致するプランの提案を行ない地元新聞やテレビ局で報道された。

### 4. おわりに

地域と一体となった調査・体験、発表等を重視した授業等により、生徒のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、課題解決力や創造力、構想力などの総合的な学力を確実に向上させている。また、科目選択やキャリアガイダンス等を通して、進学への目的意識を明確にした進路決定に結びつけるとともに、授業や朝学習、放課後・土曜・長期休業日等講習の充実により基礎・発展的学力の向上を図り、生徒の希望進路実現を推進している。

## 平成24年度 会員校の紹介

### 東京都立三鷹中等教育学校

〒181-0004 東京都三鷹市新川6-21-21  
TEL 0422-46-4181 FAX 0422-49-8429

本校は、平成22年4月より開校しました、24学級の中高一貫教育校です。校舎は、一部改修と改築を行い、平成24年8月に新校舎が完成しました。グラウンド整備を継続しており、平成25年5月に完成する予定です。

施設については、習熟度別学習に対応するための講義室や自習室の整備を行い、第1講義室から第10講義室まであるのも大きな特色です。

#### 1 育てたい生徒像

- (1) 思いやりを持った社会的リーダーを目指す生徒
- (2) 学習と特別活動・部活動の両立を目指し限界までチャレンジする生徒
- (3) 幅広い視野をもち、すべての教科を意欲的に学習する生徒
- (4) 高い目標をもち、最後まで努力する生徒
- (5) 自主的・意欲的に取り組む生徒

#### 2 教育理念と特色

- (1) 重複部分を精選し、前期課程（中学校）から高校で扱う内容を発展的・積極的に学ぶことのできる、6年間の体系的な教育
- (2) 英語・数学での習熟の程度に応じた授業や、5年生まで理系・文系を分けない幅広い教養教育の充実
- (3) 6年間を通して社会へ貢献するリーダーの資質と職業観・勤労観を育成するためのキャリア教育を行う、「人生設計学」

- (4) 朝読書や英語の原点購読を通して、読解力や言語能力を高める「読書マラソン」
- (5) 6学年が一緒に行う、学校行事・生徒会活動・部活動などの活発な特別活動・部活動
- (6) 前期課程では、豊かな情操の涵養と論理的思考力の形成、後期課程では、高い見識とコミュニケーション能力の育成につなげる、本校独自の特色ある教科
- (7) 月2回の土曜日の授業と長期休業日や毎週の補習・補講の充実

平成25年4月には、第1期生が後期課程に進級します。後期課程では、卒業までに習得すべき学力の水準を3段階で示す「三鷹スタンダード」の策定、後期課程の新たな制服の導入、国際交流の充実と海外修学旅行の実施と、都民の期待に応える学校づくりを一層進めていきます。



## シリーズ

## がんばる東京の産業界 (会員企業の紹介)

### 株式会社 秋月電子通商

資本金：1千万円 代表取締役：辻本昭夫  
東京都千代田区外神田1-8-3  
TEL 03-3251-1779

<創業> 1978年（昭和53年）6月30日  
<従業員数> 約120名（パート・アルバイト含め）

<事業内容>  
電子部品・半導体の小売業（店舗及び通信販売）

<店舗>  
◎秋葉原店 TEL 03-3251-1779  
〒101-0021 東京都千代田区外神田1-8-3  
営業時間：11:30～18:30（日祝は11:00～18:00）

◎八潮店 TEL 048-994-4313  
〒340-0813 埼玉県八潮市木曾根315  
※金土日のみ週3日のみの営業です。  
金曜日：11:00～19:00  
土曜日：10:00～18:30  
日曜日：10:00～18:00

<八潮通販センター>  
〒340-0825 埼玉県八潮市大原578  
TEL 048-998-3001 FAX 048-998-3002  
営業時間：9:00～12:00 / 12:45～18:00  
定休日：土・日・祝日  
<http://akizukidenshi.com/>

<会社紹介>  
店舗（秋葉原・八潮）と通信販売にて電子部品と半導体を販売している会社です。

各デバイス（マイコン、LED、センサ、抵抗、コンデンサ、基板、スイッチ、コネクタなど）、オリジナル電子工作キット、各種モジュール、ACアダプタ、バッテリー、各種測定器など幅広く取り揃えております。電子工作に御興味がある方は是非一度お立ち寄り下さい。

# 平成24年度 講演会報告（講演要旨）

## 宇宙と私たちの暮らし

講 師：財団法人日本宇宙フォーラム

理事長 間宮 馨氏



ご紹介に預かりました財団法人日本宇宙フォーラム理事長の間宮でございます。このような場所で、皆様のような立派な方にお話できることをとても光栄に思っております。

私は、宇宙をやりたくて大学を選び、宇宙をやりたくて、科学技術庁を選びました。宇宙開発事業団（現在の JAXA）の監督をしたり、「きぼう」を作るために NASA と交渉をしたりしました。その後、JAXA の副理事長を 5 年務めて 4 年前に日本宇宙フォーラムに移りました。

その間、一般の方は宇宙に関心はあるけれども、どうやって近付いたらいいかわからない、置き去りにされた状態にあると感じていました。そこでフォーラムに来てからは、「宇宙という難しい領域」と、「受益者たる一般の方」との橋渡しをしたいと思い、いろいろな事業を展開してきました。

今日は、日本の宇宙技術、世界における日本の位置付け、暮らしの中の宇宙技術、「教育」への期待等についてお話しします。

### 【日本の宇宙技術と世界での位置づけ】

今使っているロケットは、H-IIA と H-IIB です。来年打ち上げられるイプシロンは、小型衛星を打ち上げるものです。国の衛星は、全て H-IIA で打ち上げております。後で出てきますけれども、物資をステーションに輸送する「こうのとり」を打ち上げる専用ロケットが H-IIB で、H-IIA のエンジンを 2 つ束ねて、能力を倍にしたロケットです。世界でも最大級のもので

イプシロンは、ロケットを一種のインテリジェント化して、自分で必要に応じて不具合を判断できるようになったロケットをモバイル管制をして、数人がパソコンで打ち上げるようになります。

次に、世界のロケット比較ですが、H-IIA は能力的には「アリアン」の半分ぐらいですが、成功率は 95.2% で、信頼性は十分あります。打上げ値段が高いので、国際競争力が少し劣っていますが、三菱重工が何とか半額にしようと頑張っています。

実用衛星としては「だいち」「きく 8 号」「いぶき」



ロケット（国会議事堂とロケットの比較）

「みちびき」があります。

「だいち」地球観測衛星です。5 年間で 650 万枚という膨大な画像を送ってきております。2.5m 以上のものを識別する能力があり、東日本大震災を含む世界中の多くの災害対応で活躍しました。

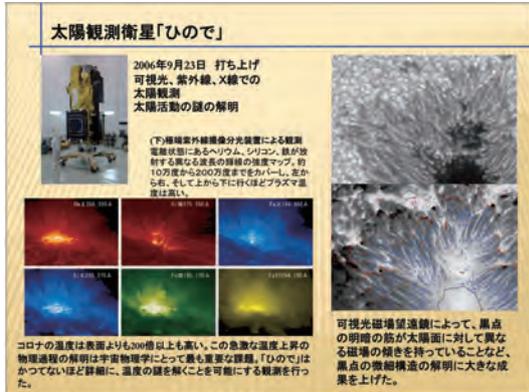
「きく 8 号」は技術試験衛星シリーズのほぼ最後の衛星で、移動体通信のために打ち上げられました。災害で地上局が皆やられたら、頼みは衛星のみになります。東日本大震災のときも、インターネット接続で、現地と東京都を結ぶチャンネルを確保しました。

温室効果ガス測定技術衛星「いぶき」は、100 分ごとに地球上の 5 万 6 千点を観測できます。将来的には大陸レベルや国レベルで、どこがどの程度、炭酸ガスを出しているのかがわかるようになる、世界で初めての衛星です。

準天頂衛星「みちびき」は今 1 機しかありません。3 機上げると、8 時間ごとに順番に日本の上に衛星が来るわけです。3 機揃えば、GPS で 10m の誤差が 1m 以下になります。精度が上がると、耕運機やトラクタなどの自動制御も可能になります。

科学衛星としては、「すざく」、「あかり」、「ひので」があります。「すざく」は、X 線天文衛星です。「あかり」は赤外線天文衛星です。星の誕生する現場の観察ができ、ガスが充満している中から星が生まれつつあるところを見つけました。

太陽観測衛星「ひので」は太陽を見る衛星ですが、可視光、紫外線、X線を3つ併せて見られ、太陽表面よりも200倍も温度が高いコロナについて、何故そんなに温度が上がるのかは謎なのですが、それを解明するきっかけを探っているところです。



太陽観測衛星「ひので」

月・惑星探査機には、「かぐや」「あかつき」「はやぶさ」の3つがあります。

アポロは月に行きましたが、人が行くことが目的であって、科学観測はしていません。月のことは何にもわかっていないのです。月の本格的な観測は「かぐや」が初めてです。金星探査機「あかつき」は、金星大気を観測しようと打ち上げましたが、金星周回軌道投入に失敗。軌道修正等を行い、2015年にもう一度金星に近付くので、軌道投入をしようと思っています。

「はやぶさ」につきましては、最近立て続けに3本映画ができ、大まかなストーリーはお分かりだと思います。「はやぶさ」は7年間、60億kmの旅をしたわけですが、本当に絶え間ないトラブル続きでした。しかし7年ぶりに地球に戻ってきて、小惑星「イトカワ」の試料が入ったカプセルを分離しました。太陽系の起源に迫る成果を出すべく今でも世界中で研究しています。

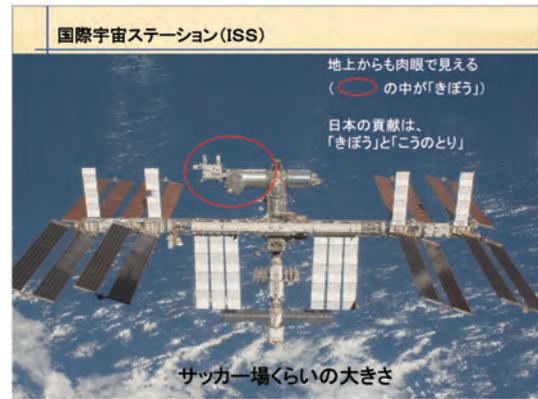
「はやぶさ」から我々が得た教訓は、まず①高い目標を持つ②怯まないで勇気を持って挑戦する③何度失敗しても成功するまでは決してあきらめない根



小惑星探査機「はやぶさ」の重要な装置

性を持つということ。これは、企業や教育の現場でも活かせると思っています。

次に有人宇宙活動ですが、日本人の宇宙飛行士は切れ目なく宇宙に滞在していて、その結果、滞在時間の総計で日本はロシアとアメリカに次いで3番目です。これはたいへんな財産で、今後の日本の宇宙開発利用に大いに役立つものです。



国際宇宙ステーション (ISS)

今飛んでいる国際宇宙ステーション (ISS) を近くから撮影したもので、地上からでもよく見えます。

「きぼう」というのは日本の実験棟で、大型バスぐらいの大きさです。

ISSに荷物を運ぶものの1つに日本の「こうのとり」があります。これは、「きぼう」と同じように、大型バス1台分ぐらいの大きさで、将来は小動物や人を運ぶかもしれません。

残った課題は帰還技術・回収技術ですが、実は回収に関しては400kmから帰ってくるよりもはるかに難しい技術を「はやぶさ」で獲得していますので、そう難しくはありません。

### 【暮らしの中の宇宙技術】

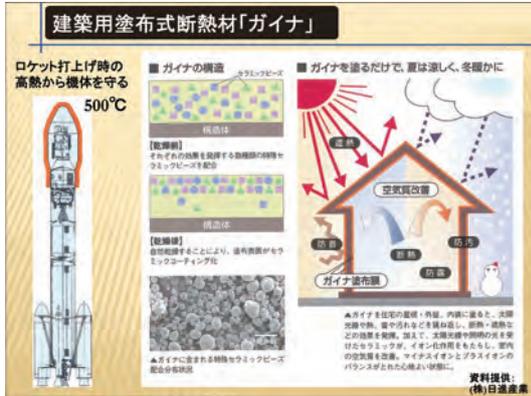
宇宙技術を直接利用する分野としては、通信、放送、気象というのが典型的ですが、最近は地球観測と測位が加わりました。

朝起きてテレビで観る天気予報には、「ひまわり」がほとんどのデータを提供しています。また、カーナビでどこに行くかチェックをする、携帯で位置ゲームをすると、グーグルで画面に実際の画像が出てきますが、衛星の画像を使っています。また、航路の確保や衛星電話も、衛星を使います。夜になればCS、BSで娯楽を楽しんでいます。

間接的にも建物の下にゴムと鉄のばねを入れた免震構造や瞬時に膨らまない間に合わないエアバックも宇宙技術を使っているのです。切らずに果物の甘さや酸度を測る技術も近赤外線を利用した宇宙技術です。

また宇宙フォーラムは、宇宙技術と一般の人とのつながりを強化する活動をしています。ロケットの

先端部に塗られた塗料は、+ 600℃までの高温から精密な人工衛星を守っています。この技術を建材等に利用すれば、夏は涼しく冬暖かく電気代が大いに節約できます。宇宙フォーラムは、このようにして開発された断熱塗料「ガイナ」の販売を応援しています。



建築用塗布式断熱材「ガイナ」

またGPSや「みちびき」が発信する位置情報は屋根で止まるので、屋内や地下街には入って来ません。したがって、屋内や地下街は、位置情報に関しては真っ暗闇です。それを明るくしようと二次発信源を天井に埋め込んで、そこから「緯度、経度、階数」を発信する「IMES」(インドア・メッセージング・システム)を実用化したいと考えています。ある人がある部屋でSOSを発した場合、今は消防車や警察がビルに来て、そのビルの中のどこにいるのかは分からないので、助けようがありません。しかし、このシステムが入ると、ビルの何階のどの部屋にいるのかわかるのです。今、これを二子玉川のショッピングセンターの全館で実証試験しています。ある人が地下街のある店の前に行くと、ピンポンと携帯が鳴り、その店でこういう特売をしているという情報が入ってくる。緊急時も役に立つし、日常でも役に立ちます。

7月21日に「こうのとりの3号機」が上がります。ハイビジョンカメラ2台がISSに取り付けられて、24時間365日地表を舐めて撮影します。リアルタイムの画像が皆さんのお手元にそのまま届くようなシステムを、宇宙フォーラムが3年かけて開発しました。9月頃から運用に入る予定です。全世界の500箇所に一瞬にして画像を送るシステムができています。教育やビジネスでの使い方に関して意見をいただいて、それを実現する方向で考えていますので、是非ご協力いただきたいと思っています。

Space-iと称して、毎月1回宇宙に関する旬な情報を、宇宙フォーラムが無料で全国の科学館に発送しています。非常に喜ばれており、東京都内の科学館も利用しています。現在は宇宙だけの情報を載せていますが、これを全科学技術に拡大していき、『Space

i』を『Science i』にしたいと思っています。これには研究開発機関の情報、企業の新製品等の情報、科学館側が喜ぶ情報を何でも載せたいと思っています。

相乗り小型衛星については、都立産業技術高等専門学校が1回利用して打ち上げた実績があります。いつでも応募できますし、採用されれば一番直近で打ち上げてもらえますので、チャレンジをしていただければと思います。宇宙フォーラムは事務局をしており、技術的なご相談等ご協力できると思っています。

### 【教育への期待】

優れた資質を持つ日本人の能力を開花させるため、教育が非常に大きな役割を果たすべきと思っています。教育においては子どもの心に火をつけなければならないわけですが、火をつけるには、宇宙というのは非常に良い素材ではないかと考えております。

私は、40年近く宇宙に携わってきましたが、最初に学んだのが、「宇宙開発のやり方」です。そのやり方とは、まず、1番目に目標を設定し、2番目に必要な手段を抽出し、3番目に手段を組み合わせながら達成時期までに目標達成が出来るような線表を作り、4番目に、作った線表通りに実行すると言うものです。

ここで最も重要なのが、「目標設定」です。ケネディ大統領が「1960年代末までに月に人を送る」と決めたように「具体的な目標」と「達成時期」を決めることです。ここで言う目標とは「ある時点における状態の規定」です。「状態の規定」とは、誰もが間違いなく受けとめられる規定の仕方、あいまいさがない状態、のことでこれが目標です。このやり方はどこにでも使えます。是非、教育現場の中で、このやり方を導入していただきたい。目標を達成する計画を作るという努力があって、それを実現するという事で得られる達成感が人を大きく成長させます。

もう一つは、「本物体験」です、本物は非常にインパクトが大きいので、何かを考え直すというきっかけになります。特に挑戦しようという気持ちが育つと思います。宇宙の例で言えば、実際にいろいろな施設がありますが、筑波宇宙センターへ行ってみれば、ロケットはいかに巨大なものであるかとか、実験室がまたさまざま大きいものであることを実感できます。一番いいのは小型衛星の製作・打ち上げで、これは本当にはらはらドキドキの経験ができますし、今までやったことがないことをすべてやらなくてはいけなくなるので、自分で気が付かなかった能力が開花します。これは宇宙だけではなく、他の分野でも同じだと思います。今後、是非導入し、生徒達に挑戦の機会を与えてやっていただきたいと思っています。

ご清聴、どうもありがとうございました。

(質疑応答が活発に行われましたが、割愛しました)

## 作文コンクール入選者決定

<高等学校・専修学校の部> 応募作品115

最優秀賞	一頭の子豚から教わったこと	3年	山崎 明日香	都立瑞穂農芸高等学校
優秀賞	「無知」を知る課題別学習の重要性	4年	黒木 縫	東京大学教育学部附属中等教育学校
	地域のためにできること	2年	尾山 駿	都立瑞穂農芸高等学校
	挑戦	3年	高橋 裕貴	都立葛飾商業高等学校
	私のインターンシップ	2年	長谷川 静郁	ホスピタリティツーリズム専門学校

このほか、13点が佳作として入選しました。

<中学校の部> 応募作品159

最優秀賞	僕と本のパートナー	2年	沖山 慎之介	世田谷区立喜多見中学校
優秀賞	伝統芸能「能」を通じて	1年	藤波 重紀	筑波大学附属中学校
	学習に対しての心構え	3年	齊藤 真由	足立区立第六中学校
	「うれしさ」というやりがい	3年	小野 真悠子	都立大泉高等学校附属中学校

このほか、19点が佳作として入選しました。

表彰式は、平成24年12月21日（金）東京都庁第二本庁舎10階201、202会議室で行います。

また、最優秀賞、優秀賞、入選作は作文集「明日に生きる」第23号に掲載させていただきます。

## 教育功労者表彰式

平成24年11月19日（月）午後3時より都庁第二本庁舎31階特別会議室26において、平成24年度東京都産業教育振興会教育功労者表彰式を実施いたしました。

御下賜金記念産業教育功労者（20名）、中学校技術・家庭科教育功労者（7名）の方に西澤宏繁会長から表彰状と記念品が手渡されました。

会長の祝辞に続き産業教育振興中央会中山淑廣専務理事、丹藤浩東京都公立高等学校長協会会長、堀米孝尚東京都中学校長会長の3名の来賓からご祝辞をいただきました。

祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立農芸高等学校花野耕一校長から謝辞が述べられました。



## 東京都産業教育振興会 ホームページアドレス

<http://www.tosanshin.org/>

### 事務局より

- 平成24年度「会報」第143号をお届けいたします。  
会報の編集、発行に際してご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。
- 東京都の産業教育をさらに飛躍させるために活動するとともに、情報等をお知らせしています。会員の皆様からのご感想、ご意見等をお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会  
〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1  
東京都教育庁都立学校教育部  
高等学校教育課内  
電話 03-5320-6729  
FAX 03-5388-1727  
印刷 株式会社小薬印刷所

再生紙を使用しています